

NPO と行政の協働会議 出前出張会議（小野）議事録

日 時： 平成 19 年 11 月 16 日（金） 13:30～17:00

場 所： 小野市うるおい交流館エクラ

出席者： 【NPO 部会】黒田、野崎、山崎、能島、河口、柳田、前川、田中
【行政部会】畑(松田)、藤原(稲垣)、鬼頭、鬼本、三木(小山)

欠席者： 【NPO 部会】坂本 【行政部会】余田

事務局： 小森、高橋、市田、福島、笹井、宮崎、北村、弓岡、山北

1 あいさつ（13:30～）

（1）司会 黒田

（2）前川（NPO 部会代表として）

協働会議は、NPO と行政の協働に関する課題を議論してきた。地域には地域に密着した課題がある。本日は、地域の課題を出し合い、共通の課題として今後も話し合っていきたい。

（3）鬼頭（行政部会代表として）

協働会議は、震災後、復興過程の課題をNPOと行政が円卓会議的に議論・解決策を見出そうところから始まった取り組みである。「参画と協働」「パブリックコメント手続」「委員の公募」「会議の公開」等を旨として進めてきた。

“協働”は、行政だけでも市民県民だけでも解決できない課題に対して有効である。とはいっても、互いに理解が進んでいないのが現状である。原因はそれぞれの行動原理の違いの理解不足。

- ・行政は、公平性を優先する。だから全体が見えないと動けない。
- ・NPO は、公平性より特定のミッションに従って動きやすい。

これらの違いを認め合わないとこの不幸は続く。NPOは行政経費を決して安く上げるための手段ではない。NPOの専門性を生かすことが必要である。協働を通してお互いの弱点が見えてきたら、変革していくことが大切である。

（4）小林小野市総合政策部長(来賓として)

小野市の市政の方針として、行政も企業と同じく成果とコスト意識が必要であると考えを持っている。

福祉会館の建設がきっかけとして参画と協働の拠点施設の話になり、エクラ開館へとつながって来た。そして、NPO 支援の NPO として発足した NPO 法人北播磨市民活動センターがエクラの運営の委託を受けたことで、状況が一変した。

年間 100 万人の来場者があるひまわりの丘公園は道の駅、道のオアシスの小野バージョンであり、地場産業の出店で 3 億円の売上がある。中には年商 1,000 万円を超える店舗もある。また、小野白雲谷温泉施設ゆびかも改装により、大きな成果を得ている。

このほか、脳科学に裏付けされた“おの検定”の取り組みや、地域活動の拠点としてJR加古川線の各駅の改築を行っている。

実行委員会方式（おの祭り、コンサートなどさまざま）による事業・行事の実施も積極的に取り入れ、市民・各種団体との連絡調整会議等を実施して参画・調整を進めている。



2 「NPOと行政の協働会議」について（能島）

1997.7 生活復興ラウンドテーブル 1993.3 NPOと行政の生活復興会議

2001.10 NPOと行政の協働会議と発展改組してきた。

協働会議の開催と諸事業を実施している。

（内容は、添付の当日資料参照）

3 パネルディスカッション テーマ：地域を創る市民のつながり コーディネーター 野崎（ひょうご市民活動協議会代表）

NPO法制定や、ボランティアが法人化して活動というイメージが始まったのが9年前である。

戦後は地域の福祉は社会福祉協議会がその推進役を担ってきた。震災後、社会的にもこれまでと質の違うボランティアが登場してきた。極端な捉え方が有償と無償。法人化しているNPOと、していないNPO。さまざまな違いを超えて共存させたい。

神戸阪神間はNPO（法人）が多い。小野や加古川ではNPOと社協等の地域団体がうまく連携ができていると聞き及んでいおる。そういった実態から学びたいということも今回の狙いである。

河口（さんぴいす理事長）

「学びの原点は遊び！」をモットーに活動しており、新しい学びの場としてコミュニティスクールを作りたいと考えている。

子ども会がなくなる・ないなど、子どもの環境が地域から消滅している。その中で「子育て」で目的を共有し、シニア世代との交流で一時保育を支援し始めた。地域の方同士が顔馴染みになっていくときに、まちづくりが出来るのではないか。

「子育て」をテーマに行政・地域団体、企業で出会える仕組みをつくれればつながるのではということで、県少子局と「NPOと行政の子育て支援会議」「メッセ」を開催している。



坂本（三木市社会福祉協議会ボランティアコーディネーター）

多種多様なボランティアと社協がどうつながっていくかが問題意識の最初であった。平成17年度に三木市地域福祉推進計画“三木市におけるボランティア・市民活動を推進する5ヵ年プラン（通称、つながりぷらん）”を、市民・行政・社会福祉協議会などが一緒になって作った。このプロセスも評価しているが、これを三木市の計画の中にそのまま入れたことも大きな成果である。

特定のボランティアとの付き合いから、住民一人一人が自分達のできる活動をしてもらうこと、その人たちを繋ぐこと。そして、ボランティアの価値を見えるようにすることが大切である。

平成19年度は“つながりプラン”の見直し中である。その中で、次には社協VCを通さないコーディネートの構想を進めている。VCを通すと時間がかかるため、一定のルールに従ってNPO同士で人を集めることができる仕組みとしてプラットフォーム化を模索中である。



藤井（小野市総合政策部リーダー）

自己紹介：総合政策部は地域政策G、企画政策G、協働参画Gから成り、2グループのリーダーを兼務している。

市として市民活動の拠点施設を構想中に指定管理者制度が創設し、エクラはその第1号となった。エクラの運営には行政職員は一人も入っていない。運営方法等は激しく議論し合い相互に妥協しながら調整を進めた。しかし基本的には行政はNPOを理解していないのが現状である。

国の地域再生計画により「自治体とNPOとの関係再編」(場の提供、人・組織の育成、協働)がテーマとして、それまで小野市が持っていた福祉会館建設構想をそうした人材や組織のインキュベート機能を持たせた施設建設を志向した。一方、北播磨地域を対象とした中間支援NPOを志向していたNPO法人北播磨市民活動センターのミッションが一致し、現在のエクラの運営方式が徐々に出来上がっていった。

市側から言えば、質を落とさず(高め)コストダウン。市民に活動の場の提供。いきがいづくり、市民の自己実現を求めている。

この拠点を中心に、小学校区毎にあるコミュニティセンターや地域づくり協議会が活性化し、地域の活性化ということ以外具体的な用途目的を決めない補助金(300万円)の創設に至った。また、ガーデニングボランティア(140名)の活動からハーブサミットの開催へとつながったり、実行委員会方式によるエクラのホール運営やフェスティバル運営へと発展している。

田中(シーズ加古川理事長)

NPOすっきゃ加古川(加古川辞典の作成など加古川学)等の理事長と共に、86のボランティア団体の登録を得て、ゆるやかネットワークを構築している。各団体へは、専従スタッフの手配やら会議室の手配などを支援している。

阪神間では社協とNPOはハブとマングースの関係ではなかろうか。加古川では行政や社協とNPOも腹に一物を抱えつつ、良好な関係を築いているように思う。

柳田(北播磨市民活動センター理事長)

加古川は人口27万人、小野は5万人、北播磨全部と加古川市がほぼ同じ人口規模である。この差を見ると、市民サービスに同じ価値観を持つことはあまり意味が無い。むしろ価値観の共有や目的意識の共有が大事であろう。

NPO法人北播磨市民活動センターは、エクラの運営委託を受けてしまったために、様々なタイムリミットがエクラのグランドオープン=ホール運営に集中せざるを得なかった。NPOとしてのミッションは後回しになったことが反省点である。エクラが3年経って管理運営に余裕が出てきた。今後、本来のミッションのひとつである「つながりの醸成」に取り組みだした。

ホール運営を通じて館のサポートチームが成長してきた。チーム裏方(音響・照明・大道具)、フロントチーム(もぎり・席案内)、アナウンスチーム(司会)、ガイドボランティア(視察等に備えた案内)等が出来上がっている。

運営委員会により実施されたジャズコンサートで、これらのボランティアと共に、子育て



支援ボランティアが託児ルームを開設した。小さい子ども連れの方々にも好評であり、ホールのスタッフがうまく機能して一つのイベントが成功したと自負している。運営委員会は、大きな井戸端会議場のイメージである。

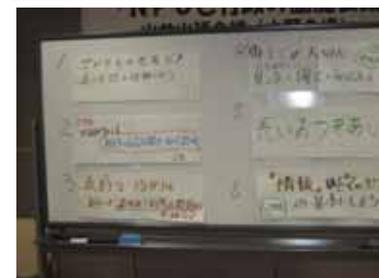
共通する課題として、自治会、老人会、子ども会、婦人会などが崩壊し、NPOが出来始めた。しかし、すべての既存の仕組みがなくなったわけではない。既存の仕組みとNPOの関係を再構築する必要がある。“組織ではなく活動でつながる”ということが重要である。団体を背景にすると結局つながらない。組織というものはつながらないもの。人と人のつながりのほうが期待できる。

行政も縦割りではなく、活動による横のつながりが求められる。そういう意味で、地域課題で一堂に会することは大切である。この“つながり”を確かなものにするためにも、イベントなどの事業継続していくことが大事である。

4 ワークショップ

6グループに分かれ、パネルディスカッションと同じテーマで協議を行い、キーワードにまとめた。

- 1班 ・プロセスの共有だ！
・違いを認め理解し合う
- 2班 ・つながりとは「相手の話を聞き・知り・認め合う」こと
- 3班 ・友好なつながりは、お互いを認めあう対等な関係から生まれる！
- 4班 ・ハブが大切だ
・固定観念をとり、見る・聞く・知ってみる やってみる
参加してみる
- 5班 ・長いおつきあい
- 6班 ・「情報」を「マッチング」の基本にしよう！



5 その他

(1) 事前打ち合わせ



(2) 施設見学

